

平成30年度 県立日立第一高等学校全日制（単位制） 自己評価表

<p>目指す学校像</p>	<p>本校は、創立以来90年が経過し、その間、豊かな伝統と歴史をもつ進学校として着実に発展を遂げてきた。さらなる飛躍を期し、「普通科、サイエンス科を併設する進学重視型単位制高等学校」、 「併設型中高一貫教育校」としての特色を生かしながら、21世紀の世界を担いうる、有為な人材の育成を目指した学校づくりを行う。 本校の全ての職員は、教育公務員としての自覚と使命感を堅持しながら、教育目標の達成に邁進し、併せて信頼と活力を生む「地域に開かれた学校」づくりを推進する。 また、本校の「自主・自律」の校風を大切にしながら、「文武両道」の精神のもと、特別活動・学習活動の充実を期するとともに、生徒一人ひとりの自己実現を図る。本校のめざす生徒像は次のとおりとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学ぶ喜びを知る生徒 2 自立し、生き抜く力を持つ生徒 3 広く社会で活躍できる生徒 		
<p>昨年度の成果と課題</p>	<p>重点項目</p>	<p>重点目標</p>	<p>達成状況</p>
<p>【学習指導・進路指導】 【成果】 難関大学や医学部への進学指導が実を結び、東京大学・京都大学・筑波大学医学部などの合格者が出た。 【課題】 進学ノウハウの共有と成果検証 【生徒指導】 【成果】 ・生徒の自主性・自律性を重んじた指導が行われており、生徒指導上のトラブルは少ない。 【課題】 長欠等、目標を見失った生徒や特別な配慮が必要な生徒へのケア 【特別活動】 【成果】 学校行事や部活動に生徒が積極的に参加している。部活動と家庭学習のバランスを上手に取れる生徒が増えてきた。 【課題】 部によって部活動の時間管理がルーズになっている。 【国際教育】 【成果】 ロイヤルラッセル校での模擬国連において、議案を提出するなど、イギリスセミナーの参加の質が向上した。留学生との交流を通して国際的な視野が広がった。 【課題】 全体として海外に出ようとする意欲に乏しい。 【科学教育】 【成果】 SSHを中心として課題研究やディスカッションをするスキルは向上してきた。 【課題】 課題研究や発表・討論などに対する評価の仕方</p>	<p>1 高い志の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ノブレス・オブリージュ精神の涵養 ・授業以外の体験活動の充実及び参加者の増加 ・やり抜く力を持つ生徒の育成（部活動等） ・リーダーシップスキルの育成（ホームルーム等） 	<p>B</p>
<p>【国際教育】 【成果】 ロイヤルラッセル校での模擬国連において、議案を提出するなど、イギリスセミナーの参加の質が向上した。留学生との交流を通して国際的な視野が広がった。 【課題】 全体として海外に出ようとする意欲に乏しい。 【科学教育】 【成果】 SSHを中心として課題研究やディスカッションをするスキルは向上してきた。 【課題】 課題研究や発表・討論などに対する評価の仕方</p>	<p>2 難関校受験に対応した進学・学習指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫教育1期生のデータの分析と情報共有 ・予習・授業・復習のサイクルの定着に向けた指導強化 ・学年団による学習課題等のコントロール及び授業交換の在り方の検討 ・思考力・表現力の育成に重点を置いた授業の実施（高）※SSH, ICTを含む ・国語力（読む力・書く力・話す力・聞く力）の育成に重点を置いた授業の実施（中） ・6年間を見通した「サイエンスリテラシー」「グローバルコミュニケーション」の内容の精選（中） ・読書等、思考力のバックボーンを育てる機会の充実 	<p>A</p>
<p>【国際教育】 【成果】 ロイヤルラッセル校での模擬国連において、議案を提出するなど、イギリスセミナーの参加の質が向上した。留学生との交流を通して国際的な視野が広がった。 【課題】 全体として海外に出ようとする意欲に乏しい。 【科学教育】 【成果】 SSHを中心として課題研究やディスカッションをするスキルは向上してきた。 【課題】 課題研究や発表・討論などに対する評価の仕方</p>	<p>3 組織的できめ細かな生活指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の在り方に関する検討（中・高） ・特別な配慮が必要な生徒に対する理解の推進及び個々の生徒に対する指導方針の共有 ・生徒指導上の問題の情報共有（中） ・学業不振に陥った生徒に対する早期のケア 	<p>B</p>

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度（学期）への主な課題							
国語	1 現代文・古文・漢文・表現の四領域のそれぞれの基礎学力を確立させ、総合的な言語能力を育成させる。また、自然科学系の作品・文章に親しませる。	1) 問題集を持たせて考查ごとに提出させ、実力考查と定期考查の範囲の一部とし、自学自習の習慣づけを図る。	1, 2	B	B	A	A	・今年度の反省と生徒の現状を踏まえた学習指導の向上を図る。 ・「共通テスト」対策も念頭に置いた授業展開の研究を進める。 ・「新学習指導要領」に基づく「教育課程」編成の検討を実施する。					
		2) 校内研修会（教科会）等で、当面する問題を話し合い、教科指導の向上を図る。	2, 3	B					A	A			
		3) 年次に応じた読書指導と表現指導をし、言語能力の向上を図る。	2	B					B	B			
		4) レポートを提出する際に、幅広く自然科学の分野などからも作品を選ばせる。	1, 2	B					B	B			
	2 現代文・古文・漢文・表現の四領域のそれぞれの応用学力を養成させ、読解し、鑑賞し、表現する能力を育成・向上させる。	1) 問題集を持たせて考查ごとに提出させ、実力考查と定期考查の範囲の一部とし、自学自習の習慣づけを図る。	1, 2	A					A	A	A		
		2) 校内研修会（教科会）等で、当面する問題を話し合い、教科指導の向上を図る。	2, 3	B						A	A		
		3) 年次に応じた読書指導と表現指導をし、論理的な思考力・表現力を養成させる。	2	B						B	B		
	3 現代文・古文・漢文・表現の四領域それぞれの受験に対応した学力をいっそう高めさせ、言語文化に対する広くかつ深い関心を持たせ、思考力を高める。	1) 受験に対応した問題演習により、総合的な学力を高めさせる。	1, 2	A					A	A	A		
		2) 校内研修会（教科会）等で、受験対策について話し合い、教科指導力をさらに高めさせる。	2, 3	B						A	A		
		3) 年次に応じた読書指導と表現指導をし、小論文に対応した記述力を高めさせる。	1, 2	B						B	B		
	地歴公民科	1 中高一貫校として、工夫された教育課程を通して、生徒の実態に合わせた学力の向上に努める。実施にあたっては、各年次や分掌と協力し、国際社会に貢献できる人材の育成を目指す。	1) 第1年次および2年次においては、望ましい学習習慣を確立させ基礎基本の定着を図る。第3年次においては、授業を基本として学習を進めることに加え、多様な希望に応えるため、個別指導や課外指導を積極的に行う。	2, 3					B	B	A	A	・今年度のセンター試験の結果を踏まえて、「共通テスト」に向けた適切な指導方法を科全体で検討する。 ・新学習指導要領に対応した教育課程のあり方を検討する。 ・教科全体で、各学年の情報や各授業担当者の指導法について、共有を図れるようにする。
			2) 附属中学校の授業実施者と情報交換を行い、高校入学までの学習内容の把握に努める。	1, 2					B				
3) 中高の教員が一体となって、中高一貫生への指導過程を再検証することで、最難関大学合格へ向けた指導のあり方を検討する。			2	B	B	B							
4) それぞれの科目の授業を通して、科学技術と人間生活について考えさせ、国際社会について考察する能力を身につけさせる。			1, 2	B	A	A							
2 地理歴史科では、生徒の多様な希望に応えるよう、授業内容を工夫改善する。様々な視点を学ぶことにより多角的な思考力を涵養し、国際社会の中で主体的に生きる資質と能力を養う。		1) 1・2年次の授業では、地理や歴史に対する興味関心を喚起し、基礎基本の習得に努めさせる。世界の諸課題について、地理的に考察させるとともに歴史的な背景を理解させ、現在行われている対策について分析する方法と能力を身につけさせる。	2, 3	B	A	A	A						
		2) 3年次の授業では、1・2年次の内容基礎としてより発展的な知識および技能の習得を図り、大学受験に対応できる能力を養う。自らの在り方・生き方を考察するなかで、世界の諸課題に対する論理的思考力を養う。	1, 2	A		A	A						
3 公民科では、生徒の多様な希望に応えるよう、授業内容を工夫改善する。政治・経済・倫理をより具体的に学ぶことにより、社会や自己の在り方について深く考察できる資質と能力を養う。		1) 1年次の「現代社会」においては、民主政治における個人と国家の在り方を学習させ、国際社会の一員としての自覚を形成させる。	1	A	A	A	A						
		2) 3年次の「政治経済」「倫理」では、教科書の内容の定着を図るとともに、課題学習や論述指導を行い、国際社会の中で自らの在り方・生き方を深く考察させる。また、授業内容は大学入試センター試験以上の水準を維持する。	1, 2	A		A	A						
数 学		1 3年間を見通した学力の養成	1) 1年次（高入） 基本の徹底を図り、基礎力・計算力の育成を図る。タブレット端末を用いた学力向上のための指導法を研究する。	2, 3	B	B	A	A	・共通テストに向けた教材研究 ・各年次間での指導法等の情報共有の強化				
	1年次（内進） 基礎力・計算力の育成を図るとともに問題演習を通して応用能力を養っていく。タブレット端末を用いた学力向上のための指導法を研究する。		2	B	B					B			
	2) 2年次（普通科）教科書の内容の理解の徹底を図り、さらに、問題演習を通して応用能力を養っていく。		2, 3	B	A					A			
	2年次（サイエンス科）教科書の内容の理解の徹底及び、発展的な内容の問題演習を行い実力養成を図る。		2, 3	B	A					A			
	3) 3年次（普通科）少人数の授業を生かすことで、文系、理系を問わず、センター試験に対応するだけでなく、記述力の養成を図る。		2, 3	B	A					A			
	3年次（サイエンス科）少人数の授業を生かし、センター試験の対応はもちろん、発展的、融合的な記述問題にも取り組み、記述力の養成を図る		2	A	A					A			
	2 指導すべき基本事項の精選と、その理解の徹底、計算力の育成	「日々の演習（3年次）」により基礎力を培う。「課題（2年次）」を通して基礎力の定着を図る。1年次は「週課題」を課し、單元ごとに章末テストを行う。	2, 3	B	B					B			
	3 成績上位者のさらなる学力向上	成績上位者に対する個別指導を行う。	2	A	A					A			
	4 知識量に頼らない応用力の育成	予習・復習の習慣化を徹底し、主体的に学ぶことの大切さを伝える。	2	B	B					B			
	5 既習分野の実力育成	課外等により、既習分野の学習内容の理解を深め、次年度の授業につながる学力を養成する。	2, 3	B	A					A			
	6 「科学する心」の育成	科学研究や白堊研究の授業を通して、科学に関する興味関心を喚起し、論理的思考力・創造力の養成を目指す。	2	B	A					A			
	7 中高6年間を通じた指導の研究	発達段階に応じた指導内容や指導方法の研究を通して、中高一貫教育の充実を図る。	2, 3	B	B					B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度(学期)への主な課題					
理科	1 自然現象の中に見られる物理法則の学習を通して、科学的に思考する能力と態度を育てる。	知識の定着をはかるとともに、演示実験や生徒実験を多く行い、物理の基本概念をつかませることに努める。	2, 3	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・センター試験、2次試験の指導を充実させる。 ・共通テストに対応した教科指導を行う。 				
	2 身の回りにある物質に対する興味・関心を持たせ、化学的に探究する能力と態度を育てる。	演示実験や生徒実験を多く行うことで知識の定着をはかり、物質の構造や物質の変化等がわかりやすい授業をめざす。	2, 3	B				A	A		
	3 生物学的に物事を探究する態度を育てるとともに、基本的な生命の概念や生命現象の原理・法則を理解させる。	観察・実験を通して生命や生命現象に興味を持たせるとともに、正確な知識の定着をはかる。	2, 3	A				A	A		
	4 身の回りの自然や物事を探究する態度を育てるとともに、地学的な知識・原理・法則を身につけさせる。	知識の定着をはかるとともに、観察・実験を通して地球や自然現象についての概念を持たせることに努める。	2, 3	B				B	B		
	5 センター試験及び二次試験に十分対応できる学力を身につけさせる。	二次対策を見据えた問題演習に取り組み、受験対策に努める。	2	B				B	B		
	6 生徒の実態に合わせた学力の向上に努める。	個別指導や課外指導を積極的に行うことで、生徒の多様な希望に応えるとともに、学業不振者の早期ケアに努める。	3	A				A	A		
	7 科学的ディスカッションをできるリーダーの育成。	主体的・協働的な学習活動により、基本的な研究スキルを身につけ、科学的ディスカッションができる人材の育成を図る。	1, 2	A				A	A		
保健体育	1 個人及び社会生活における健康安全についての理解を深めさせるとともにグローバルな視野で健康をとらえ実践してゆく力を育む。	1) 個人としてだけでなく、これからの社会を担う一員としてグローバル的健康について考える重要性を理解させる。	1, 3	B	B	A	体力テストでは、優秀校に選ばれたが(第2位)握力とボール投げが県平均レベルであり他種目と比較すると低い値となっている。中高一貫の特性を利用して中高連携プログラムを立ち上げ強化を目指す。実技体育では、リーダー的存在の育成を目指したい。また選択制授業においては、特に1・2年次で定期考査や学校行事等で授業が中断される場合もあった。計画的な授業を展開しモチベーションが下がらないような工夫が必要である。				
		2) 自発的な課題解決型グループ学習を通して、健康課題に適切に対応する能力を育てる。	1, 3	B				A	A		
		3) 視聴覚教材の活用や実習を通して、健康安全に関する重要性を認識させ、知識を見識へと導く。	1, 3	B				A	A		
	2 運動技能を高め、強健な心身の発達を促すとともに、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じてスポーツに興味・関心を示し運動を実践できる能力と態度を育む。	1) 体づくり運動、水泳、長距離走を重点種目に設定し、意欲的に取り組ませるとともに、体力の向上を図る。	1, 3	A				A	A		
		2) 生涯体育に繋がる体育好きな生徒の育成を目指し、新体力テストでは県トップレベルを目指す。(昨年は2位)	1, 3	A				A	A		
		3) 各種目において、反復練習や課題練習を通して、運動技能を高める。	1, 3	B				B	B		
		4) 各種目において、作戦を立て、攻防の仕方を工夫し、練習やゲームができるようにする。	1, 3	B				B	B		
		5) 運動についての科学的な理解を深め、運動の合理的な実践ができるようにする。	1, 3	B				B	B		
	芸術	1 感性を高め、芸術の基礎的諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。	1) 芸術についての総合的な理解を深め、主体的な学習ができるように、適切な題材設定や指導に努める。	2				B	B	A	受験において、芸術系の実技を要する生徒への意識付けを早い段階からできるよう、クラス担任や進路担当との連携が必要である。そのために、芸術科としても、芸術系実技の必要な学部・学科を一覧表にまとめるなどしていきたい。
			2) 表現と鑑賞のバランスのとれた授業展開を工夫して、芸術的な素養を身に付けさせる。	2				B			
	2 芸術系進路希望者の実力養成。	個別指導を充実させて実技試験に対応できる表現力を養う。	2	B	B	B					
英語	1 英語を読み、書き、聞き、話す活動を通して、実践的コミュニケーション力の基礎を習得させる。	1) 英語コミュニケーションIでは、少人数授業の利点を生かし、生徒の活動をベースとする授業を行い、内容理解力とともに自己表現力の育成に努める。	2, 3	A	B	A	今年度目標の「具体的方策」には年次担当者一丸となって精一杯取り組むことができたが、依然として生徒の語彙力強化や英文読解力強化には課題が残る。次年度以降も小テストを定期的実施したりサイドリーダー購読を促したりするなどして、それらの育成に努めていきたい。				
		2) 英語表現Iでは、ALTとの効果的な連携を図り、4技能の習得を意識しながら、基本的な文法や語彙の運用力を養成する。	2	B				A	A		
		3) 授業では、ペアワークやグループワークを活用し、4技能の統合を意識した英語活動を取り入れ、考査問題の工夫に努める。	1, 2, 3	A				A	A		
		4) 授業の補完的・発展的な学習として、課題(週末課題・宿題)や副教材を活用し、家庭学習の効果的な動機付けを図る。	2, 3	A				A	A		
		5) 授業や課題を通して、従来よりも英語のインプット量を増やし、自然科学系の英文理解力の強化に努める。	1, 2	B				A	A		
	2 読解力・表現力の育成を中心に、実践的な英語コミュニケーション能力の基礎を育成する。	1) 英語コミュニケーションIIでは、教科書の訳読に終始せず、タスク活動をベースとした授業を行い、英文理解力と自己表現力の養成を図る。	1	B				A	A	4技能5領域を考えると、今年度はスピーキング活動にあまり時間をかけられなかった。2年次はプレゼンテーションとディベートのプロジェクトがあるが、全てのクラスで全てをできたわけではなく、また効果的だったかも検討の余地がある。時間数等の問題もあるので、やるべきことを取捨選択をしながら、年間を通して継続的に指導できるような計画できるとよいと考える。	
		2) 英語表現IIでは、英作文につながる基本文法や語彙を反復練習し、英語表現の基礎を育成する。	2	B				A	A		
		3) Q&Aやエッセイライティングなどを活動を通し、授業の活性化と4技能の統合を意識した英語活動を取り入れる。	2	A				B	B		
		4) 授業の補完的・発展的な学習として副教材などを授業開始後短時間で扱い、家庭学習の効果的な動機付けを与える。	2	B				B	B		
		5) 授業や課題を通して、従来よりも英語のインプット量を増やし、自然科学系の英文理解力の強化にも努める。	2	B				A	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度(学期)への主な課題
3	大学入試にも対応できる、実践的な英語理解力と表現力を養成する。	1) 英語コミュニケーションⅢでは、教科書を中心に十分なインプットを行い、要約の作成など実践的な英文理解力の養成に努める。 1 A	A	A	A	運動部を終えた生徒がすみやかに受験勉強に取り組めるように、教師陣が授業だけではなく、もう少し個別にアプローチできればよかった。
		2) 英語表現Ⅱでは、語彙や文法の正確な運用力を育成し、様々な演習課題を通して実践的な英語表現力の養成に努める。 1 A				
		3) 自習課題や課外授業を活用し、生徒の英語力向上を効果的にサポートする。 1 B				
		4) 考査や小テストの内容や実施形態を工夫し、実践的な英語力養成への効果的な動機付けを図る。 1,2 B				
		5) 授業の内容や実施形態を工夫し、個別指導の充実も図りながら、効果的な入試対策指導を行う。 1,2 B				
家庭科	1 生活の営みを総合的に捉え、生活に必要な基本的な知識と技術の習得	1) 講義・実験・実習を通して、基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。毎日の生活の中の衣食住に興味を持たせる。 2 B	B	A	A	・消費者教育に力を入れた授業内容を検討する。 ・講義・実験・実習の内容を家庭科だけに止めず、他教科とも関連してつながっていることを理解させ、学部間問わず小論文に使える内容を検討していく。
	2 男女が協力して家庭や地域との生活を創造する能力と実践的な態度の育成	2) 卒業後の親から離れた生活の自立を目指し、課題研究・実習を通して苦手分野を克服し今の生活より質を下げない充実した生活が送れる能力と実践的な態度を育てる。 2 B				
	3 大学入試の小論文にも対応できる知識と文章力を養成する	3) 授業で学習した内容を文章にまとめることを繰り返し行うことによって、小論文・面接試験に対応できる応用力を養う。 1,2 B				
情報	1 情報社会に参画する態度の育成	1) 講義や実習を通して、情報社会における基本的な知識と技術、情報モラルを習得させる。 2 B	B	B	B	・3年ほど同じ内容で実施しており、基本的な知識等は身に着けていると感じるが、新テストを念頭に置いて作成した第2回定期考査問題の出来が良くなかったので、来年度以降、変えるべきところを話し合いながら、新テストに対応できるようにしてゆく。
	2 情報活用実践力の育成	2) 実習を通して問題解決の手順を理解し、適切な情報手段を判断・活用し解決できる能力の養成に努める。グループ作業・プレゼンテーション活動を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。 1,2 B				
	3 新教育課程の研究	3) 新教育課程における授業内容・授業展開・学習指導法の研究・実践に努める。 1,2 B				
教務部	1 学校行事の円滑な運営に努め、実施後に広く意見を集約し十分な検証を行う。新規行事に特に注意し、来年度以降の内容の充実を努める。	1) 学校行事の内容を十分検討し、適正な時期に計画し実施する。目的を明確にし、効果的な役割分担を計画する。特に、新設された行事や時期が変更になった行事について検討を行い、内容の充実を努める。 1,2,3 B	B	A	A	今年度は、年間通しての通常の仕事以外に、時間割変更の軽減や中高一貫の検証等に力を入れたかった。時間割交換の軽減については、1年次からスタートする「少人数制の授業」等があり、時間割の編成自体が大変で、現状では時間割交換の軽減はとて難しく今後の課題である。また、併設型の中高一貫校の状況を調べたが、どの一貫校も「中学の先取り授業」と「内進・高入生のクラス編成」で苦慮しているようである。これを解決することが、時間割交換の仕事の軽減に繋がると考える。
		2) 各学校行事について、関係する校務分掌や年次との連携を密にし円滑に運営出来るよう努める。また、附属中学校も含めた協働体制を構築するよう努める。 1,2,3 B				
	2 生徒の自己実現を図るため、授業時間の確保に努め、生徒一人一人の学力向上に努める。	1) 授業時数に偏りがないよう、時間割変更を的確に行い調整する。時間割変更業務の円滑な運営に努める。 1 A				
		2) 各教科との連携を密にし、より効果的な時間割編成に努める。 1 A				
	3 各校務分掌、年次、教科が円滑に連携できるよう、学校運営の要として尽力する。また、これまでの取組に加え、今年度2年次に進級するサイエンス科の様々な取組についても積極的に支援する。	1) 校内定期考査および実力考査の適正な実施に努め、公正な評価を行えるよう考査環境を整備する。 1 A				
		2) 生徒の出欠について、正確な状況の把握に努め、関係各部との連絡調整を円滑に行う。 2,3 A				
		3) 生徒の多様な進路希望に対応するため、授業展開や実施場所の工夫を行う。 1,2,3 A				
		4) 奨学金に関する情報を、正確確実に提供し、生徒のより良い学習環境の実現を図る。 1,2,3 A				
	4 進学重視型単位制高校として、より選択幅の広い教育環境の充実を目指す。また、併設型中高一貫教育校として附属中学校との連携に取り組む。	1) 各科等で教育課程を工夫しやすいう、様々な情報の提供に努める。 1 B				
		2) 附属中学校を含めた教育課程の研究を行い、併設型中高一貫校としてより効果的な教育内容の実施に努める。 1 B				
	5 進学重視型単位制高校として、魅力ある創造的な授業を目指し、授業方法及び評価の改善や研究に努める。	1) 教科や科目の目標と評価の観点を設定し、学習シラバスに基づいた検証を行う。 1,2,3 B				
		2) 進路指導部や各年次と連携し、3年間を通した学習計画を充実させる。 1,2,3 B				
3) 少人数教育の推進に努め、授業内容及び効果について点検や検証を進める。 1,2,3 B						
4) 教員間で公開授業の意義を再確認し、それぞれが授業内容の向上に努める体制を整備する。また、研究授業が盛んな中学籍の教員を活用し、より効果的な授業研究が行われるよう努める。 1,2,3 B						
6 特色ある取組として、現在行っている高大連携や国際交流を積極的に推進する。	1) イギリス海外研修、海外サイエンスセミナー、高大接続事業、高大連携事業等、本校における様々な事業について、実施方法や内容について検証するとともに、各部が連携しやすいうよう努める。また、入学希望者や生徒への広報に努める。 1,2,3 B					

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度(学期)への主な課題				
進路指導部	1 生徒一人ひとりの目標達成に向け、適切な進路指導に努める。	1) 進路に関する資料の収集・整理と的確な分析により、情報の有効活用に努める。	2	A	B	A	A	・進路に関する行事のあり方を見直し、他の校務分掌と連携し、精選および検討を行う。 ・高大接続改革(大学入学共通テスト、外部検定の活用など)に関する情報を収集し、必要に応じて対策を講じていく。		
		2) 『進路資料』等を通して、系統的な進路指導に努める。	2	A		A				
		3) 中教審の答申や大学入試制度に関する情報を積極的に収集し、本校の実態に即した適切な対策を講じる。	2	B		B				
	2 3年間を見通した計画的、系統的な進路指導に努めるとともに、附属中からの継続性とサイエンス科の先進的な取り組みを活かす。	1) 進路相談を充実させ、インターネットの利用や「進路通信」の発行を通して情報の提供に努める。	2	B		B			B	
		2) LHR・進学ガイダンス・HRセミナー・大学見学会等を通して、進路意識の高揚を図る。	1,2	B		A			A	
		3) 国公立大学・難関私立大学への合格率がアップするように、年次及び教科との密接な連携を図りながら、充実した課外授業やサテライト講座の活用を通して、進路実現に必要な学力を養成する。	2	A		A			A	
		4) 様々な講演会や体験学習ならびに進路指導を通し、大学の先にある将来をグローバルな視点で選択できる力を養う。	1,2	B		A			A	
	3 各年次及び各教科と密接な連携を図り、効率の良い進路指導に努める。	1) 外部模試は明確な目的のもとで受験させ、結果を速やかに分析・整理して全職員で情報を共有し、事後指導に活かす。	2	B		A			A	
		2) 小論文や論述問題に関する指導は、各教科と連絡を取り、志望校に応じた指導に努める。	2	B		A			A	
		3) 進路関係の研究会や進路報告会には、附属中及び高校教員にも参加を呼びかけ、積極的な情報交換に努める。	2	B		A			A	
	4 教員一人一人が資質の向上に努める。	1) 教員の教科指導のセミナーや研修会に積極的に参加し個人の資質を高めるとともに、他の教員への還元にも努める。	2	A		A			A	
	保健厚生部	1 健康で安全な生活を営むために必要な生徒一人一人の能力と、自立的な態度を育てる。また、環境整備を促進し、安全で充実した教育環境をつくる。	1) 健康観察を実施し、生徒達の日々の健康状態を把握し適切な健康管理に努める。	2		A			B	A
2) 防災機器の点検・管理を行う。並びに避難訓練を通して生徒達の危機管理意識の高揚に努める。			1	B	A					
3) 毎日の清掃活動を通して、学習環境の衛生管理及び美化に努める。			1	B	B					
2 学校保健活動の推進と保健活動の向上に努める。	1) 学校保健委員会を通して1年間の学校生活の様子・体力測定の結果などを報告し今後の取り組みに理解を求める。	1,2	B	A	A					
生徒指導部	1 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚に努める。	1) 様々な生活指導を通し、自主自立の意義を理解させ、更なる自律心を養う。	1,3	A	B	A	A	SNSトラブルの未然防止。注意を呼びかけるだけでは限界がある。第一段階として、年次や生徒会と連携して、校内でのスマホの利用について申し合わせ事項を作成する必要性について検討をする。 ツイッターやフェイスブックの現状についても研修が必要だと感じる。生徒指導部外からも方法についてのアイデアを募りたい。		
		2) 講話やLHRなどを利用し、挨拶や礼法の重要性を理解させ、自発的な励行を促す。	1,3	B		A				
	2 「社会の模範となる人材」としてのマナーを身につける。	1) 「さわやかマナーアップ運動」を推進するとともに、生徒会と連携し、マナーアップの呼びかけを行う。	1,3	B		B			A	B
		2) LHRや道徳などの授業を通し、モラルの向上やマナーアップに関する討論や活動を行う。	1,3	C		B			A	B
	3 安全教育の推進と事故防止に努める。	1) 自転車指導・バイク指導等の交通安全指導を定期的に行う。	3	A		A			A	
		2) 薬物乱用防止等の安全教室を行い、生徒の危機対応能力を高める。	3			A			A	
3) 校内研修会を実施し、教職員の危機管理に対するスキルの向上を図る。		1,3	D	C	C					
渉外部	1 保護者(家庭)、地域との連絡を密にし、相互理解を深め円滑なPTA活動を行う。	1) 新入生父母と教師の会の運営の充実を図る。PTA総会の行事の企画を充実し、会員の出席を促す。	1,2,3	B	B	B	A	PTA役員・各専門委員と連携を密にし、対外的な活動を積極的に行う。校内行事にPTA役員・委員がもっと参加できるような企画運営を図る。新入生の保護者に対してPTA活動への支援・協力要請を行う。		
		2) ホームルームセミナー、大学見学等学力振興に関わる行事の企画、運営を充実させ、またマナーアップ運動等生徒指導に関わる企画、運営を充実させる。	1,2	A		A				
		3) 広報紙発行等広報に関わる企画、運営を充実させ、またマラソン大会の体育後援に関わる企画運営を充実させる。	3	A		A			A	
		4) 各高等学校との連絡を密にし、地域のPTA活動を活発にする。PTA全国大会、関東大会等各種研修に積極的に参加、研修内容を持ち帰り、PTA活動に活かす。	1,3	B		A			A	
2 各専門委員会活動の調整を行い、生徒の健全育成の一助とする。	1) 総務委員会・全体委員会で十分な審議をし、結果を会員、生徒に知らせて共通理解を図る。決定事項等を各専門委員会の活動に反映させる。	2,3	B	B	B					
特活指導部	1 様々な学校活動、社会活動を通じて、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。また、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育て、社会に貢献できる人間の育成に努める。	1) 生徒会や各種委員会の活動を活発化させ、生徒全体で「望ましい学校像」を実現するため、意識の向上に努める。	1,3	A	A	A	A	部活動の活発化。人員募集の方法。生徒会のより自主的な活動、及びボランティア活動の積極的な活動。 文武両道を実践するにはどうしたらよいか、生徒生徒の啓発化。		
		2) 学校行事やHRの諸活動を通して、HRや学校生活における望ましい人間関係を構築させ、あわせて帰属する集団の発展のために必要な、健全な生活態度の育成を目指す。	1,3	A		A				
		3) クラスマッチや野球応援など、学校行事への主体的かつ積極的な参加を促し、自分が所属する集団への帰属意識を高め、よりよい学校生活を送るための自主的・実践的な態度の育成を図る。	3	A		A			A	
		4) 社会性や人間性を高め、地域社会においてリーダーシップのとれる人材の育成をめざし、またボランティア活動を積極的に推進する。	1,3	B		B			B	
		5) 部活動への加入を促し、その活動を数的・質的に活性化、充実化し、学業と部活動の両立を目指す。	3	B		B			B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度(学期)への主な課題		
学校図書部	1 図書館利用の活性化と読書活動の充実。	1) 開館時間を拡大し、移動図書館の実施等とあわせ、利用拡大をはかり、活発で創造的な図書委員会活動ができるように支援する。	1, 2, 3	B	B	B	・各教科・特別活動分野との連携をはかり、図書館を有効に利用してもらうための環境づくり。おもに高校生の図書館利用の拡大。	
		2) 各教科・各年次(高校)・学年(中学)との連携を図り、豊かな読書活動を目指す。	1, 2	B	B	B		
3) 館内の環境整備(展示の充実やDVD等の新規図書資料の貸出)に努める。		1, 2	A	A	A			
2 校内放送の充実と放送技術の向上	1) 活発かつ学校行事の円滑な実施に資する放送委員会活動ができるように支援する。	1	A	A	A			
情報部	1 学校管理支援システムの安定した運用の実施	1) サイエンス科の完成に伴った変更点に注意し、支援システムの安定運用に努める。	2	A	A	A		・来年度より、成績処理ソフトが全県統一のシステムに移行する。そのために必要なセキュリティ対策を各先生方に身につけてもらうため、さらなる啓発活動を行っていく。
	2 情報発信の充実	2) ホームページ等を用いた情報発信を、個人情報等の流出に注意しつつ、迅速・定期的・積極的に行う。	1	B	B	B		
	3 校内ネットワーク快適利用のための整備	3) 校内ネットワークサーバの安定運用を続けられる様に業者と連携するとともに、情報セキュリティ向上のため、啓発活動を行う。	2	B	B	B		
教育相談部	1 生徒の健全な人間形成と自己実現の促進に努める。	1) スクールカウンセラーや担任・年次と連携しながら、生徒及び保護者への援助活動を行う。	3	A	A	A	特別支援が必要な生徒が複数名在籍するようになった現状を踏まえ、そのような生徒に対応できる体制を整える必要がある。特に、附属中には特別支援教室がないので、それに代わる機関を設置できればよいと考える。	
		2) 校内研修会・Hyper-Quの実施等を通して教師や生徒への支援を行う。	3	A	A	A		
サイエンス部(サイエンス科)	1 日本そして世界をリードする科学技術者や地域医療等に貢献する人材の育成を図る。	1) 離開理工系、歯歯薬系大学への合格者数が増加するように、進路指導部及び年次・教科との密接な連携を図りながら、充実した企画や行事の実施を図り、生徒の学習意欲の高揚に努める。	1, 2, 3	A	A	A	HP等における広報活動の充実が課題である。	
		2) 地域や大学の医師による講義、医療機関等(国内)での研修を柱とした「メディカルセミナー」の内容を充実させる。	1, 2	B	A	A		
		3) 科学者や研究者による講義、研究機関等(国内)での研修を柱とした「サイエンスセミナー」の内容を充実させる。	1, 2	B	A	A		
		4) SSH事業と連携しながら「課題研究」や「海外サイエンスセミナー」の内容を充実させ、プレゼンテーション能力の向上や国際的な視野の育成を図る。	1, 2	A	A	A		
	2 サイエンス科の広報活動を充実させる。	1) 体系的組織的な広報活動を行い、本校サイエンス科の教育活動について地域社会・近隣小中学校等への周知を図る。	2	C	B	B		
		2) 「サイエンス科通信」等を通して啓発活動に努め、サイエンス科を志望する生徒を広く募る。	3	B	A	A		
サイエンス部(SSH)	1 「科学的ディスカッションができるリーダーを育成する」ための研究開発を行う。	1) 「白堊研究Ⅰ」により、科学的思考力や科学的ディスカッションができる人材を育成するための研究をする。	1, 2, 3	A	A	A	・3期目の中間の年、計画内容等の評価を行い、さらに良いものにする。 ・SSHで得た成果を校内で共有する。 ・「白堊研究Ⅲ」「研究発表会」により、生徒の研究に必要な基礎スキルのさらなる向上を図る。	
		2) 「白堊研究Ⅱ」を通して、科学に対する興味・関心を高め、科学に主体的・協働的な取り組みができる生徒を育成するとともに、コミュニケーション能力やディスカッション能力を向上させるための研究をする。	1, 2	A	A	A		
		3) 「白堊科学A・B」を通して、科学における基本的な概念、原理・法則などについての系統的な理解を深めるため、ディスカッションの機会を設けた授業を展開する。実験などにより、研究の基本的なスキルの向上を図る。	1, 2, 3	B	A	A		
		4) 中高一貫校としてのサイエンスリテラシー育成教育の研究に努める。	1, 2	A	A	A		
	2 「課題研究」をサポートする取組を行う。	1) 「白堊科学セミナー」「科学講演会」「科学研修会」「数学力育成講座」などの取組により、科学に対する、意欲・好奇心を高める。	1, 2	B	A	A		
		2) 「科学英語」「海外研修」「白堊英語セミナー」を通して、コミュニケーション能力の伸長を図る。	1, 2	A	A	A		
		3) 「白堊ネイチャースクール」「科学研究発表会」「科学系コンテスト」「科学の祭典」等に、生徒を積極的に取り組ませることにより、科学者の資質の育成を図る。	1, 2	A	A	A		
	3 SSHの普及を図る。	1) 「SSH中間報告会」「SSH科学研究成果発表会」を実施することにより、校内外に本校の活動を広めるとともに、SSH活動の活性化を図る。また、SSH通信やHPなどを活用し、広報活動に取り組む。	1, 2	C	A	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度(学期)への主な課題					
第1年次	1 社会を構成する一員としての自覚と規範意識を身に付けさせ、自己指導能力を育成する。	1) 自主・自律の校風の下、規範意識を高め、生徒自らが良好な学校環境を作れるよう指導・助言を行う。 1,3 B	B	A	A	・手帳等を活用した自己マネジメント力の育成 ・自律した学習者の育成					
		2) HR活動や道徳を通して、マナーや倫理観の向上など、心の教育を充実させ、自己指導能力を高める。 1,3 B									
	2 進路指導を充実させ、進路に対する意識を高め、高い目標を持つ姿勢を養うとともに、世界的な視野を持ち、国際社会に貢献できる人材を育成する。	1) 進路指導部との連携強化を図り、面談実施、情報周知・共有化により、日頃の進路指導を充実させ、進路に対する意識を強める。 2 B					A	B	A		
		2) HRセミナーや大学見学会をとおして、職業観の育成及び上級学校・学問の理解を図り、高い進路目標を持たせると共にその実現に向けた幅広い知識と教養を身に付けさせる。 2 C									
		3) S・SH事業や国際交流事業といった活動を通して、世界的な視野を広げ、国際社会で活躍できる表現力・英語力・技能を持つ人材の育成に努める。 1,2 B									
	3 授業を大切に学習活動を確立させ、自主的に取り組む態度と進路実現に向けた確かな学力を育成する。	1) 授業は予習と復習を含め成り立っていることを理解させ、家庭学習の習慣を身につけさせることにより学力の向上を図る。 2 B					A	B	A		
		2) 基礎学力の定着と学習活動のステップアップを図るため、週末課題・課外・校外模試等への積極的な取り組みを促す。さらに学習調査などをもとに生徒個々に対しアドバイスを行っていく。 2 B									
		3) 授業の大切さを強く意識させ、意欲を高められる授業を展開するため、研究・改善を行い教科指導の充実を図る。 2 B									
	4 部活動やホームルーム活動などの特別活動や学校行事への積極的な参加により、愛校心・協調性・社会性を育成する。	1) 部活動や生徒会活動、その他の学校行事等への積極的な参加を促し、協調性や社会性の向上とリーダーシップを育成し、心身共にバランスのとれた人間形成を図る。 1,3 B					A	B	A		
		2) 課外の実施時間や時期の設定を工夫しながら、部活動と課外活動が両立できる環境を整える。 1,3 C									
	第2年次	1 社会を構成する一員としての自覚と規範意識を身に付けさせ、自己指導能力を育成する。					1) 自主・自律の校風の下、規範意識を高め、生徒自らが良好な学校環境を作れるよう指導・助言を行う。 1 A	B	A	A	進路実現に向け、以下の点を特に強化していく。 ・3年次になるまでに、英教国においては「基礎の確立」を果たし、4月からは実践力を養っていく。理社の学習内容を早期に網羅し、夏から実践力の育成に繋げる。 ・担任面談を主に、学習指導や進路指導を計画的に行い、将来の職業選択につながる進路決定ができる援助を実践する。また、学年団の連携を図り、平常・夏季課外、模擬試験の取り組みをより一層有用的にすることで、生徒が期待する進路目標に近づける。 ・学校行事やHR活動を通して、「人間力の成長」が図れるようにする。
							2) HR活動やその中で行われる道徳プラスを通して、マナーや倫理観の向上など、心の教育を充実させ、自己指導能力を高めさせる。 1,2 B				
2 進路指導を充実させ、進路に対する意識を高め、より高い目標を持つ姿勢を養うとともに、世界的な視野を持ち、国際社会に貢献できる人材を育成する。		1) 進路指導部との連携強化、個別面談の実施、情報の周知・共有化など、日頃の進路指導を充実させ、進路に対する意識を高めさせる。 1,2 B	B	B	B						
		2) HRセミナーや目標とする大学のオープンキャンパスの参加を通して、職業観の育成及び上級学校への理解を図る。さらに、高い進路目標を持たせると共に、その実現に向けた幅広い知識と教養を身に付けさせる。 1,2 B									
		3) S・SH事業や国際交流事業等を通して世界的な視野を広げ、国際社会で活躍できる表現力・英語力・技能を持つ人材の育成に努める。 1,2,3 B									
3 授業を大切に学習活動を確立させ、自主的に取り組む態度と進路実現に向けた確かな学力を育成する。		1) 授業は予習と復習を含め成り立っていることを理解させ、家庭学習の習慣を身につけさせ、学習方法の仕方を考えさせることにより学力の向上を図る。 1,2 B	B	B	B						
		2) 基礎学力の定着と学習活動のステップアップを図るため、週末課題・課外・校外模試等への積極的な取り組みを促す。さらに学習調査などをもとに面談の機会を数多く設け、生徒個々に対しアドバイスを行っていく。 1,2,3 B									
		3) 授業への意欲を高めさせ、高い学力を育む授業を展開するため、研究・改善を行い、教科指導の充実を図る。 1,2 B									
4 中堅年次として、部活動やホームルーム活動などの特別活動や学校行事への積極的な参加により、愛校心・協調性・社会性を育成する。		1) 部活動や生徒会活動、その他の学校行事等において中心的な役割を担う意欲を高めさせ、協調性や社会性の向上とリーダーシップを育成し、心身共にバランスのとれた人間形成を図る。 3 B	A	A	A						
		2) 課外や模試の実施方法を検討しながら、部活動や課外活動に積極的に取り組める環境を整える。 2 A									
第3年次		1 将来、社会において自らが担う役割を自覚させ、ノブリス・オブリージュ精神の涵養を目指し、深い思慮と優れた判断力・行動力を身につけさせる。	1) 最高年次としての責任を自覚させ、自らの生活を律し、進んで学校環境の改善に努める姿勢を養う。 1,2,3 B	B	A	A	併設型の中高連携教育の課題を整理し、その改善のために、3年間ならびに6年間の振り返りを行い、他年次にその引き継ぎを行う。				
			2) 日々の生活の中で、自己と社会との関わりを意識させ、他者を尊重し、ともに向上する意欲と態度を養う。 1,2,3 A								
	3) LHR・個別面談等を通じ、生徒の自己理解・他者理解の深化を促し、深い思慮と優れた判断力・行動力を身につけさせる。 1,2,3 A										
	2 高い志を下げさせることなく、第一志望校合格を目指させ、進路指導部との連携のもと、組織的・計画的な進路指導を行う。	1) 授業への集中力を高めさせると同時に、課外・サテライト・校外模試への積極的な参加と、その有効活用を図る。 1,2 A	A					A	A		
		2) 朝や放課後の自習の励行、自習室の活用促進により、最適な自学・自習の環境を作る。 1,2 B									
		3) 進路情報や指導法の共有化を図り、生徒の多様な学力・進路希望に対応できる指導体制を構築する。 1,2 A									
	3 最高年次として、学校行事ならびに特別活動やホームルーム活動への主体的な取り組みを促し、集団に寄与する精神を育てる。	1) 文武両道(学習活動と特別活動の両立)をめざし、心身の調和がとれた優れた人間性とたくましく生きる力を養う。 1,3 B	A					B	A		
		2) 各種の学校行事に主体的かつ積極的に参加し、これを主導するリーダー性を養う。 1,3 B									
	4 自然科学や人文科学など、学問に対する興味関心の幅を広げ、国際社会において貢献できる人材の育成に努める。	1) 基礎・基本を踏まえ、それを応用できる力の育成を目指し、一人一人の探求心や科学的思考力を高める。 1,2,3 B	B					B	B		
		2) 授業やLHRを通じて、広い視野や高いコミュニケーション能力など、国際社会で活躍できる力の育成に努める。 1,2,3 B									

※評価基準 A:大変よくできた B:よくできた C:ふつう D:やや不十分 E:不十分